

1型糖尿病研究基金のとりのくみ

当基金では、治療・根治・予防が切れ目なくつながって実現することが本当の「根治」と考えています。例えば各カテゴリーで以下のような研究事例がその対象になります。

カテゴリー	治療	根治	予防
	現在の治療法の改善により、体への負担が軽くなり、生活の質が向上する。	インスリン補充から解放され、病気になる前のもとの体に戻る。	これから新しく発症する患者を無くして、1型糖尿病を完全に克服する。
研究事例	完全に自動化されたインスリンポンプ（機械式人工膵島） 血糖値に対応して効き目が調節されるインスリン製剤（自己調節型インスリン）	インスリンを作る細胞の移植（すい島移植） 自分の体の細胞によって失ったすい島を再生（再生医療）	免疫作用を調節して発症を未然に防ぐワクチン

1型糖尿病研究基金は運営団体の認定NPO法人日本IDDMネットワークが他の会計とは別に特別会計を設け、明確に区分し管理しています。1型糖尿病の研究を対象に毎年公募などによる助成を行っています。選考結果及び、その成果につきましては“IDDMレポート(白書)”でサポーターの皆さまへご報告します。

私たちも応援しています。



京都大学iPS細胞研究所 所長

山中 伸弥

基金を作って、研究費を支援していることは本当に素晴らしいことだと思います。私たち研究者のモチベーションは成果を待っている患者さんに貢献したいという思いです。本当に糖尿病を何とかしたいと思っています。



プロフィギュアスケーター

荒川 静香

この基金を通して、根治のための研究がよりスムーズになり、患者さんやそのご家族に、「治るから」という言葉をかけられる。そんな希望溢れる未来がくることを心から願っています。

1型糖尿病研究基金は「認定特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク」が運営しています。

認定特定非営利活動法人 日本IDDMネットワーク

日本IDDMネットワークは、不治の病である1型糖尿病の根治に向けて活動しています。阪神・淡路大震災の際、患者がインスリンの入手に大変な苦勞を強いられた事を契機に、患者・家族の全国的連携を図るため1995年9月に発足しました。私たちは、この1型糖尿病を「治らない」から「治る」病気にし、患者と家族が希望を持って生きられる社会の実現を目指しています。

【日本IDDMネットワークの3つの約束】

救う—患者・家族の生活を改善するために正確な情報提供、相談対応などを行います。

つなぐ—協働、啓発などで患者と医療者・製薬企業など社会全体をつなぎます。

解決する—「1型糖尿病研究基金」により1型糖尿病を根治するための研究を促進します。



患者や、患者家族向けの出版物も発行しています

事務局：〒840-0823 佐賀県佐賀市柳町4-13 / Tel:0952-20-2062 / Fax:020-4664-1804 / e-mail:info@japan-iddm.net

IDDM 検索 <https://japan-iddm.net/>

「わたし治るの？」
って聞かれたとき
「治るよ」って
言ってあげられ
なかった。

「治るよ」と言える社会へ

1型糖尿病の2025年までの根治を目指して

1型糖尿病研究基金

1日33円からの
マンスリー
サポーター

ご協力をお願い

認定特定非営利活動法人

日本IDDMネットワーク

<https://japan-iddm.net/>

1型糖尿病を根治し、 「治るよ」と言える社会に。

ゆうこちゃんは、毎日注射を
打たなくてよい生活を夢見ています。

8歳のゆうこちゃんは発症した0歳のときから
これまでに10,000回以上もの注射をしています。
毎日注射を打つことになってしまっていますが
注射の無い生活を夢見ています。
ゆうこちゃんと同じように、現在の医療では
治らないとされている1型糖尿病の患者は
全国に10~14万人いると推定されます。



ゆうこちゃん(8歳)

患者さんの希望のために
1型糖尿病研究基金は
2025年までの根治を目指した研究への
助成基金です。

1型糖尿病の患者や家族は、インスリン注射を一生打ち続けなければならない、
「治らない」ということで絶望してしまいます。
そんな患者や家族に「治るよ」と言えるよう、
医学・医療の現場では、根治を目指した研究が日々行われています。
根治に向けた研究は、患者や家族にとっての希望です。
当基金は、「治るよ」と言える日が来るという希望のために設立され、
根治を目指した研究の継続・促進を目的として助成を行っています。

根治に向けた研究をこれまで以上に支えるために
3,000人のサポーターが必要です。

1型糖尿病の根治のためには、数多くの研究を行うことや、研究を継続することが非常に重要です。
そのため、当基金では1億円の助成金を集めるために3,000人のサポーターを募集しています。
患者・家族が元となっている当基金からの助成金は患者・家族みんなの思いがこもっているため
研究者にもその思いが伝わり研究を促進させることができます。
子どもたちの希望のために、マンスリーサポーターになって、あなたの力を貸してください。

私たちが子どもに希望を持ってほしいと願います。

この基金は患者・家族によって作られ、
研究者やサポーターと一体になって根治を目指すために活動しています。

看護師



患者さんに
「治るからね」って
言ってあげたい。

原内科クリニック / 京都大学大学院
看護学博士
(東海地区 糖尿病看護認定看護師の会)世話人
水野 美華

糖尿病医療に携わるようになってから、多くの1型糖尿病の方やそのご家族と出会い、みなさんの進学、就職、結婚、出産など、嬉しいこともたくさん経験をさせていただいています。患者さんには糖尿病に振り回されない人生を送って欲しいというのが私の願いです。これまで教科書からは学べないことをみなさんから教えてもらい育ててもらったご恩を、少しずつお返ししていきたいと思っています。

患者
家族



基金が発展して
研究が進めば
希望も増える。

mimiface JAPAN 代表
山本 麻未

「治らない」という道しかなかったところから、多くの方々の努力や思いや応援で、「治る」という可能性の道ができるということは、子どもたちに希望や勇気を与える大きなギフトだと思います。そして、1型糖尿病だけでなく様々な病気の患者様にも希望を繋ぐことが出来るのではないかと思います。基金を通して研究に尽力くださる皆様のお力に少しでもなれることは患者家族としても嬉しく思います。

研究者



希望のために
大切にに使わせて
もらっています。

国立国際医療研究センター
膵島移植プロジェクト研究アドバイザー /
大塚製薬工場研究開発センター特別顧問
松本 慎一

バイオ人工膵島移植や膵島再生など根治に向けた研究はよいよ現実味を帯びてきました。現実にするには継続した研究が不可欠ですが、研究費が無ければ継続できません。基金からの研究費は研究継続に大いに役立っています。一日でも早く子どもたちを注射から解放してあげたいという思いで日々研究に励んでいます。

患者



「治る」という言葉は
私たち患者に
勇気を与えてくれます。

エアロビック競技元日本代表
大村 詠一

私は8歳のときに発症しました。それから25年以上、毎日注射を打っています。発症して聞かされた「治らない」という事実は、当時小学生だった自分には受け入れがたく、絶望したのを覚えています。同じ思いをする子どもがいない世の中にしたいので、この基金のサポーターになりました。「この病気は治るよ!」と言ってあげられる日が早く来てほしいです。

1型糖尿病研究基金マンスリーサポーターは

- 月々1,000円から始められます。
- 毎年“IDDMレポート(白書)”で助成先の報告をします。
- メールで金額の変更や停止ができます。
- クレジットカード、口座振替どちらもご利用いただけます。

寄付金控除
の対象です
当基金へのご寄付は
税制上の優遇措置を
受けることができます

1

WEBサイトから申し込む

IDDM マンスリー 検索

<https://japan-iddm.net/support/fund/monthly/>



2

申し込み用紙で申し込む(口座振替のみ)

同封の申し込み用紙にご記入の上
ご郵送ください。

ゆうこちゃんのような子どもたちに
「治るよ」と言ってあげられる社会にするために、
1型糖尿病研究基金に協力します。

クレジットカードをご利用の方は、Webサイトからお申し込みいただけます。

IDDM マンスリー

検索

<https://japan-iddm.net/support/fund/monthly/>

1 月 **2,000円** 月 **3,000円** 月 **6,000円** 月 **10,000円** 月 _____ **000円**

税控除について 当会へのご寄付は、所得税・法人税の優遇措置が受けられます。領収証は年明けに、前年分をまとめてご送付いたします。

2

フリガナ		性別	生年月日		
お名前		<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女	西暦		
			年	月	日
ご住所	〒	電話番号	-		
		携帯電話	-		
		e-mail			

3 クレジットカードか口座振替のどちらかをお選びください。

~~クレジットカード~~

カード名義人 (アルファベット)	有効期限
カード番号	月 / 20 年

※上記のカード会社のみご利用いただけます

口座振替 預金口座振替依頼書(JCBローン)・自動払込利用申込書(収加)

株式会社ROBOT PAYMENT / 特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク 御中

私は上記の料金を預金口座振替の方法により株式会社ジェーシービーを通じて支払うことにしましたので、下記記載の預金口座振替規定を確約のうえ下記口座からの振替を依頼します。(ゆうちょ銀行は除く) _____ 年 月 日

ゆうちょ銀行以外の民間金融機関または、ゆうちょ銀行のうちのどちらか1つをご指定ください。

ゆうちょ銀行以外の民間金融機関	金融機関名	<input type="checkbox"/> 銀行 <input type="checkbox"/> 信用金庫 <input type="checkbox"/> 信用組合 <input type="checkbox"/> 本店 <input type="checkbox"/> 支店 <input type="checkbox"/> 農協 <input type="checkbox"/> 漁協 <input type="checkbox"/> 労働金庫 <input type="checkbox"/> 出張所 <input type="checkbox"/> 御中			
	指定口座	1. 普通口座 2. 当座預金	口座番号(右づめでご記入ください)	銀行番号	店番号

ゆうちょ銀行	種目コード	契約種別コード	記号(6桁目がある場合は※欄にご記入ください)	番号(右づめでご記入ください)
	1 6 6 3 0 1			0 ※
払込先口座番号		00100-6-403833		払込先加入者名
				株式会社ジェーシービー

フリガナ		届け出印	不備な場合はこちらへ
口座名義人 (預金者のお名前)			

金融機関振替日・ゆうちょ銀行払込日	顧客番号	2 0 3 5 1 3 1 6	
毎月10日(金融機関休業日の場合は翌営業日)	収納企業	株式会社ジェーシービー	受託先および料金等の種類
			寄付

預金口座振替規定(ゆうちょ銀行を除く)

1. 株式会社ジェーシービー(以下「JCB」という)から貴店に請求書が送付されたときは、私に通知することなく、毎月所定日(当日が金融機関休業日の場合には翌営業日)に請求書記載金額を預金口座から引落しの上支払ってください。この場合、預金規定または当座勘定規定にかかわらず、預金通帳、同払戻請求書の提出または小切手の振出しはしません。2. 振替日において請求書記載金額が預金口座から払戻すことのできる金額(当座貸越を利用できる範囲内の金額を含む)をこえるときは、私に通知することなく、請求書をJCBに返戻してもさしつかえありません。また、振替日以降任意の日に、貴店がJCBから請求のあった金額(振替日請求額の全額または一部)を引落しの上支払ってもさしつかえありません。3. この契約を解約するときは、私から貴店に書面により届出ます。なお、この届出がないまま長期間にわたりJCBから請求がない等相当の理由があるときは、とくに申し出ない限り、貴店はこの契約が終了したものと取扱ってさしつかえありません。4. この預金口座振替についてに紛争が生じても、貴店の責めによる場合をのぞき、貴店には迷惑をかけません。

ゆうちょ銀行をご指定の場合は自動払込み規定が適用されます。

金融機関・ゆうちょ銀行の方へ

この依頼書・申込書に不備がある場合は該当理由に○印を付けて下記までにご返送ください。

1. 印鑑相違 2. 預金種目相違 3. 印鑑不鮮明 4. 名義人相違 5. 口座番号相違
6. 預金取引なし 7. 支店名相違 8. その他()

不備の場合のご返送先

〒181-8001 三鷹市下連雀7-5-14
株式会社ジェーシービー カスタマーサービス部署代行グループ
電話番号 0422-40-8170(直通)
9:00AM~5:00PM(土・日・祝・年末年始休)

金融機関使用欄		
検印	印鑑照合	係印

ご支援ご協力ありがとうございます。

1型糖尿病を根治し、
「治るよ」と言える社会にするために

1型糖尿病研究基金 マンスリーサポーターに なってください。

日本IDDMネットワーク

寄付金控除
の対象です
当基金へのご寄付は
税制上の優遇措置を
受けることができます

例えば
1日33円／年
あれば



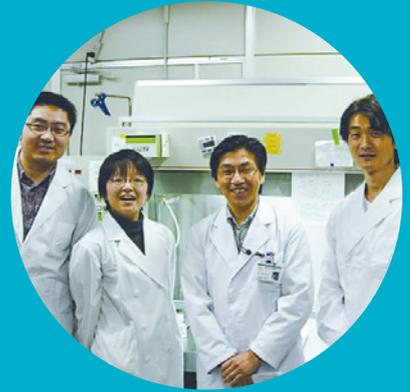
1型糖尿病を治すための試験管を使った基礎実験をおよそ5回行うことができます。この基礎実験を通して、ヒトへの有効な治療法の手掛かりを模索します。

例えば
1日66円／年
あれば



40人のサポーターが集まると、100万円の助成金を研究者に提供して、基礎実験の成果を動物を使った実験により検証することができます。

例えば
1日100円／年
あれば



280人のサポーターが集まると、1000万円の助成金を研究者に提供して、バイオ人工膵島移植の臨床応用へ大きく近づくことができます。

お申し込みは、裏面の「申込書」にご記入いただき、ご郵送ください。

クレジットカードをご利用の方は、Webサイトからもお申し込みいただけます。

IDDM マンスリー

検索

<https://japan-iddm.net/support/fund/monthly/>



山折り

山折り

山折り



差出有効期間
2022年
11月30日まで
84円分の切手を
お貼りいただく
経費の節減になります



料金受取人払郵便

日本IDDMネットワーク
認定特定非営利活動法人

佐賀市柳町4-13

〒840-8790